

能勢地域学校連携・一貫教育取組概要

能勢地域学校連携・一貫教育の取組は、平成 16 年度に大阪府立能勢高等学校の総合学科への再編と同時にスタートした「能勢町地域小中高一貫教育事業」から継続的に行っているものです。

小中高 12 年間を通して計画的・継続的な教育指導を展開し、生徒の個性や創造性を伸ばすとともに、基礎学力の充実や生きる力の育成、能勢町の豊かな自然や地域の特性を生かした実践的な学習を取り組んでいます。また、小中高の連携を通して、子どもたちが進学後の姿を具体的にイメージし進路選択できる教育環境づくりを推進しています。

令和 7 年度 能勢ささゆり学園と大阪府立豊中高等学校能勢分校との連携・交流事業

《前期課程》

- 5月：能勢分校体育祭に参加（4年生）
- 9月：ブドウ栽培・収穫（3年生）
- 11月：SDGs フェスタにブース出展・参加（1年生～6年生）
- 1月：留学生との英語交流（5年生～6年生）

《後期課程》

- 6月・8月：能勢分校体験会（9年生）
- 7月：先輩と語る会（9年生）
- 8月：能勢分校農業体験会（9年生）
- 11月：農場見学・学校説明（7年生）
- 11月：SDGs フェスタにブース出展（7年生～9年生）
- 11月：授業体験（系列体験）（9年生）

※SDGs フェスタ

能勢地域連携・一貫教育の研究主題である「グローカル人材の育成」の達成に向けて、SDGs の理念である「"No one will be left behind"」誰一人取り残さない」をもとに、令和 7 年度の研究テーマ、「誰一人取り残されない 連携・一貫教育」を設定。

子どもたちが生き生きと学び、活動している姿や、その学習の成果を発表する場として 2 回目の開催。

地域高 2 留学事業

能勢分校では、令和 3 年度から能勢町独自事業として大阪府内の遠方から能勢分校へ通う生徒を受け入れ、町内的一般家庭を下宿先として 3 年間の「里山留学制度」を実施しました。3 年間の下宿先家庭の確保が困難なことから、令和 5 年度からは内閣府の事業採択を受け、高校 2 年生の 1 年間だけ全国各地から留学生を受け入れる「地域高 2 留学事業」に取り組んでいます。

《里山留学・地域高 2 留学受入れ生徒数》

里山留学：7名

地域高 2 留学：0名

豊中高校能勢分校の存在意義

豊中高校能勢分校の存在意義は、能勢町第6次総合計画の複数の目標と深く結びついており、町の将来を支える上で不可欠な存在と評価できます。特に、「地域社会の創り手を育むまち」と「人の輪が広がるまち」の実現に大きく貢献しています。

総合計画との整合性

1. 地域社会の創り手育成

能勢町第6次総合計画は、グローカルな意識を持った担い手を町全体で育むことを掲げており、そのために「小中高一貫教育や小規模校の特性を生かした多様な学びの環境」を強化する方針です。豊中高校能勢分校は、能勢ささゆり学園（義務教育学校）との連携を通じて、以下のような役割を担っています。

- ・**小中高一貫教育の中核**: 能勢分校は、義務教育9年間と高校3年間を合わせた**12年間の切れ目のない教育**を提供しています。この一貫した教育プログラムは、地域への愛着を育み、能勢町の未来を担う人材を育成する上で重要な基盤となっています。
- ・**地域課題解決型学習の推進**: 能勢分校は、「能勢・豊能地域 課題探究」といった独自の教育活動を通して、生徒が地域の交通課題やエネルギー問題、里山保全などに取り組む機会を提供しています。これは、総合計画が目指す「持続可能な社会の創り手」を育むための実践的なアプローチです。

2. 人口減少対策と定住促進

能勢町は人口減少という大きな課題に直面しており、総合計画では「能勢ファン(関係人口)の創出と移住・定住の促進」を重要な目標としています。能勢分校の存在は、この課題に対して教育面から貢献しています。

- ・**地元へのUターン・定住を促す**: 能勢分校で学ぶことは、能勢の子どもたちが高校段階まで地元で過ごすことにつながります。これは、地元への愛着を深めるだけでなく、将来的なUターンや能勢町での起業・就職を考えるきっかけとなります。
- ・**教育の魅力化による定住促進**: 能勢分校が特色ある教育活動（地域連携、課題探究など）を展開することは、能勢町の教育全体の魅力を高めます。これは、子育て世代の移住者にとって能勢町を選択する大きな要因となり、結果的に町の**賑わいの創出**につながります。

豊中高校能勢分校の具体的な役割

- ・**地域コミュニティの中核**: 能勢分校は、地域住民との交流を深める**公開講座**や、地域課題をテーマにした**共同研究**を大学と連携して行うなど、学校が地域社会のハブとしての役割を担っています。これにより、「人・地域・地球の健康を守り、縁をつなぐ開かれたまち」という町の将来像を具現化しています。
- ・**持続可能性への貢献**: ユネスコスクールに認定されている能勢分校は、持続可能な開発のための教育（ESD）を積極的に推進しています。地域電力会社との協働や太陽光パネルの設置など、高校生が主体となって環境問題に取り組むことで、総合計画の「里山を守り・生かすまち」の実現に貢献しています。